

## 帝塚山学院大学における主な教学 IR の取り組みについて

### 【教学 IR を担当する組織・部局の概要】

本学では、事務組織としては IR 担当が所属する学長室（企画課・ICT 課）を中心に教学 IR 活動に取り組んでいる。また、会議体としても「内部質保証に関する事項」を役割の一つとする全学組織「大学評議会（議長：学長）」及びそのもとに設置されている「教学マネジメント運営会議（議長：学長）」にて、教学 IR の取り組みを教職一体となって実行している。

※2025 年度までは教学センター（企画課・教学課）が事務局の中心となり、「教学委員会」及び「教学マネジメント WG」にて教学 IR 活動を実施していた。詳細は別紙の前年度資料を参照。

### 【主な取り組み】

日常的な教学に係るデータの収集・分析に加え、「アセスメント・プラン」に基づくアセスメント活動への寄与を大きなミッションとしている。「アセスメント・プラン」に基づくアセスメントの活動の実施結果は、学長を議長とする「大学評議会」に「アセスメント・チェックリスト」に定める項目ごとの担当部局から報告を行うこととし、全学的な議論を行うとともに、アセスメント報告の結果を速やかに意思決定に繋げることができる体制を敷いている。IR 担当は専門的知見を活用し、必要に応じてアセスメント報告を行うためのデータの提供や分析、また提言を行っている。

### 【改善実績】

本学では「アセスメント・プラン」及び「アセスメント・チェックリスト」に基づき、入試から就職までアセスメントを実施し改善活動に取り組んでいる。これらの項目は毎年アセスメントを実施し「大学評議会」において結果の報告及び改善向上方策の議論がなされ、学長からのフィードバックも行っており、IR データを活用した実質的な改善サイクルが機能している、中でも顕著な改善が見られる例として、大学 IR コンソーシアムアンケートの結果が挙げられる。主な項目は以下の通り。

#### ◆1 週間あたりの授業外学修時間

（回答項目：全然ない、1 時間未満、1～2 時間、3～5 時間、6～10 時間、11～15 時間、16～20 時間、20 時間以上）

→学修時間が顕著に少ない学生（全然ない+1 時間未満）の割合が以下の通り改善した。

※具体的な取り組みは別紙の前年度資料を参照。

|                  | 1 回生     | 上回生       |
|------------------|----------|-----------|
| 2020 年度調査        | 29.1%    | 37.8%     |
| 2022 年度調査        | 24.9%    | 27.4%     |
| 2024 年度調査        | 26.5%    | 21.9%     |
| 改善度（20 年度-24 年度） | 2.6 ポイント | 15.9 ポイント |

◆大学での経験全般についての満足度

(回答項目：とても不満、不満、どちらでもない、満足、とても満足)

→満足層（満足＋とても満足）の割合が以下の通り改善した。

|                  | 1 回生      | 上回生       |
|------------------|-----------|-----------|
| 2020 年度調査        | 21.2%     | 51.3%     |
| 2022 年度調査        | 57.0%     | 56.0%     |
| 2024 年度調査        | 69.0%     | 67.2%     |
| 改善度（24 年度-20 年度） | 47.8 ポイント | 15.9 ポイント |
| 改善度（24 年度-22 年度） | 12.0 ポイント | 11.2 ポイント |

※コロナ禍の影響も大きい項目と考えられるため、22 年度との比較も記載

◆学生生活の充実度

(回答項目：充実していない、あまり充実していない、まあまあ充実している、充実している)

→充実（充実している＋まあまあ充実している）の割合が以下の通り改善した。

|                  | 1 回生      | 上回生       |
|------------------|-----------|-----------|
| 2020 年度調査        | 37.6%     | 71.1%     |
| 2022 年度調査        | 81.3%     | 77.5%     |
| 2024 年度調査        | 85.1%     | 83.7%     |
| 改善度（24 年度-20 年度） | 47.5 ポイント | 12.6 ポイント |
| 改善度（24 年度-22 年度） | 3.9 ポイント  | 6.2 ポイント  |

※コロナ禍の影響も大きい項目と考えられるため、22 年度との比較も記載

以上

## 帝塚山学院大学における主な教学 IR の取り組みについて

### 【教学 I Rを担当する組織・部局の概要】

本学では、事務組織としては IR 担当が所属する教学センター（企画課・教学課）を中心に教学 IR 活動に取り組んでいる。また、会議体としても「データに基づく教育活動の検証と改善・更新に関する事項」を役割の一つとする「教学委員会」及びそのもとに設置されている「教学マネジメント WG」にて、教学 IR の取り組みを教職一体となって実行している。

### 【主な取り組み】

日常的な教学に係るデータの収集・分析に加え、「アセスメント・プラン」に基づくアセスメント活動への寄与を大きなミッションとしている。「アセスメント・プラン」に基づくアセスメントの活動の実施結果は、学長を議長とする「大学評議会」に報告を行うこととし、アセスメント報告の結果を速やかに意思決定に繋げることができる体制を敷いている。IR 担当は専門的知見を活用し、必要に応じてアセスメント報告を行うためのデータの提供や分析、また提言を行っている。

### 【改善実績】

2021 年度に大きな取り組みとして、大学 IR コンソーシアムのアンケートを実施・分析し、本学の強みと弱みを明らかにし、またそのための改善方策の検討・報告を行った。調査・分析の結果、弱みとして「授業外での学修時間が少ない」ということが明らかになり、これを改善する方案の一つとして CAP 制度の厳格化を検討することが「大学評議会」の場でも確認され、その後の議論を経て、2022 年度入学生より CAP 制度の厳格化を実行した。

2022 年度にも同分析を実施し、本学内での経年比較では授業外での学修時間にやや増加傾向が見られるものの、他学との比較では依然として低い値を示していることが確認された。改めて教学上の重点課題として認識し、2022 年度中に授業レベルでの改善を促す取り組みを実施するとともに、他学に比肩するような数値とするための施策検討を 2023 年度の「教学マネジメント WG」の重点諮問事項として設定するなど、さらなる改善に向けた取り組みを進めることとした。

2023 年度の同分析によって、授業外での学修時間について他学との差が縮小しており、これまでの取り組みの成果が一定挙がっていることが確認できた。また、「教学マネジメント WG」において 2023 年度中に「教育の質保証」「GPA 制度の活用」の観点から授業外学修時間の促進のための 7 つの施策を立案し、いずれも実行に移している。

2024 年度の同分析においては、授業外学修時間がベンチマークの一つである文系大学の平均と同程度となったことが確認でき、これまでの取り組みの成果が一定程度挙げられたことが確認できた。今後はこの傾向が継続的に続く（あるいはベンチマークを上回る）かどうかをアセスメントで確認を行う。